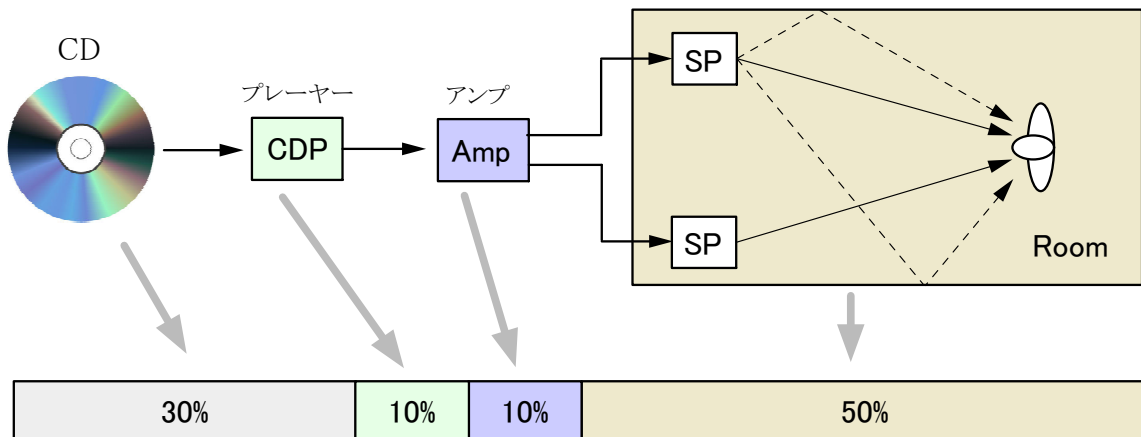


わけ DEQXが必要な理由-1

■ 再生システムの構成要素と再生音質への影響

プログラムソースからリスニングポジションまでのプロセスで、それぞれの要素が最終的な音質を左右する度合いを考えてみました。



【図1】 主な構成要素の音質への影響度

- ・プログラムソースの品質も実は様々ですが、それが私達の耳に到達するまでには再生システムの様々な影響を受けて変質してしまいます。
- ・例えば機器の歪みや雑音、あるいは個性という名のクセによる色付けやマスキング、さらに部屋の影響ではプログラムソースを本質的に変えてしまう危険性すらあります。
- ・再生システムの理想はプログラムソースに記録された情報をいささかも変質させずに私達の部屋に解き放ち、記録された姿をそのまま再現することです。
- ・そのためには装置全体が無色透明で、情報がそのまま通過 (Transparency:トランスペアレンシー) できることが極めて重要です。
- ・装置に個性(クセ)があれば、調味料を入れ過ぎて素材の味が判らなくなった料理と同じ状態になってしまうことでしょう。
- ・マイクロフォンやスピーカー、カートリッジなどの機械的な振動と電気信号を相互に変換するトランスデューサーはいまだに未完成な領域にあります。
- ・機械的な振動には必ず共振や分割振動が伴うため、20Hzから20kHzという1,000倍に及ぶオーディオ帯域の全てを正確に再現するのは今日でも極めて困難です。
- ・中でもスピーカーは条件が最も厳しく、程度の差はあっても構造的、物理的な問題から生じるクセがあり、さらに設置条件や部屋の影響も大きく受けてしまうため、再生システムの中で最も注意しなければならない部分なのです。[図1]